

強者の戦略

【二次試験で知識問題は落とさないように】

こんにちは。めっきりすずしくなり、ずっと鼻がぐずぐずしている北林です。でも風邪ではなさそう。花粉？飛来する謎の物質？それはさておき、受験生の皆さんはお元気でしょうか。センター試験まで残り100日をすぎました。早いもんです。光陰矢のごとし。いつまでも若ぶっていた私も気がつけばおっさんといわれる歳になりました。いや、認めませんけどね。

さて、最近模試の結果をもってくる生徒さんが多くなりました。世界史の点数と答案などもじっくり見せていただきますが、現段階で注目すべきは、単純な知識問題が取れているかどうか。論述は知識に加え、書き方がいろいろと必要になりますが、知っているか知らないかだけの問題は落とすと本当にもったいない。1点を争う入試でそのミスは、ひょっとしたら致命傷になるかもしれません。できなかった人はしっかり知識をつけていくところからはじめていってくださいね。

模試を受けて本格的な論述対策が必要だと感じた人は、ぜひ「東大スパルタン」「京大スパルタン」を学習に役立ててくださいね。 → <http://spartan.kenshinkan.net>

また、東大や京大の過去問解説のMODもあります → http://www.kenshinkan.net/TKV_MOD2013/
過去問を解く際にぜひ役立ててくださいね。

では毎回おなじみの入試問題へのチャレンジです。

かなり前の一橋の問題です。合衆国がラテンアメリカに介入することを問う問題は、さまざまな大学で出題されていますね。その復習だと思ってチャレンジしてみましょう。

問題

19世紀初頭から第1次世界大戦に至る時期において、フランスとアメリカ合衆国はラテン・アメリカの歴史にいかなる影響を及ぼしたか、具体的に記せ。(300字以内)

(1980 一橋大)